

令和7年度農林水産技術会議結果概要

水産技術センター

開催日	令和7年12月3日	開催場所	水産技術センター
部会名	研究成果評価部会		
評価課題	藻場再生技術高度化試験		
評価委員	国立研究開発法人水産研究教育機構・水産資源研究所沿岸生態系暖流域グループ長 三和漁業協同組合城ヶ島支所長		
評価概要	○磯焼けにより母藻採取が不可能な状況下で、種苗生産・育成技術の開発を研究目標に掲げたことは至極妥当であり、目的・目標は明確であった。 ○高水温下でも次世代を残せる一年性海藻（早熟性カジメ・アカモク）を対象とした点は合理的であり、研究項目および内容は妥当で不足はなかった。今後の課題として、環境変化に対応しうる技術高度化が望まれる。 ○研究目標は概ね達成され、漁協と連携した社会実装に成功している。他県からも関心が高く、種苗生産現場への波及効果が期待でき、実用性の高い成果となっている。 ○目標とした技術開発については十分な成果が得られており、論文化もされていることから実用性のある研究成果に到達したと評価する。 ○漁獲減少が深刻化するなかで藻場回復を実現する研究方向は妥当であり、現場切実な状況に合致したものである。 ○早熟性カジメの海域展開は有効であり、研究内容への期待は大きい。今後はスポアバッグ、囲い網の導入等、海況変動への対応も検討してほしい。 ○城ヶ島のみならず複数の浜へ取り組みが拡大した点を高く評価する。研究成果が現場の活動意欲向上に寄与しており、実装効果が認められる。 ○現場にとって不可欠な研究成果であり、今後も連携して取り組みを継続したいとの立場から高く評価する。		